

富山空港 新たな愛称の背景・目的

<富山空港を取り巻く環境>

- 空港活性化のため、今年4月から**混合型コンセッションを導入し、行政の信用と民間の創意工夫を活かした空港運営が開始**
- 一方、令和7年度の空港利用者数は対前年度比で**5年ぶりに減少**。特に、**国際定期便については、台北便の約6年半ぶりの再開が決まったものの、多くの路線で運休**

富山空港や富山県の**認知度向上、誘客促進に繋げ、成長するインバウンド市場**を取り込むため、**新たな愛称へ**

新たな愛称のポイント①

- 富山をまだ知らないインバウンドに対し、富山の存在を認知いただく「きっかけ」を作る ⇒ 認知度向上

「すし」: 世界的な認知度、直感的な分かりやすさ

▶ インバウンドの関心を強力に
引き付け、認知度向上・誘客促進

▶ ブランディング戦略

「寿司といえば、富山」の発信強化



新たな愛称のポイント②

- 富山空港が飛騨高山地域への空の玄関口であることを世界に発信 ⇒ 空港利用者の増加

「高山」: インバウンドに人気の世界的な観光地

- ▶ 富山空港が飛騨高山地域への「空の玄関口」であることをPR
- ▶ 富山県と飛騨高山地域、県境を越えた周遊を促進

